

昨年腸内フローラを特集したテレビ番組にも登場した、ルイジアナ州立大学のグリーンウェイ教授らは、30人の肥満の被験者を2つのグループに分け、一方だけにイヌリン、βグルカン、ブルーベリー由来のアントシアニン、ポリフェノールを含んだ腸内細菌調整薬を4週

間与えて変化を調べたところ、とつたグループでは血糖値を保つ力（耐糖能）が明らかに改善し、満腹感が増加し、肥満を防ぐ短鎖脂肪酸が増える傾向が見られたが、インスリン感受性や腸内細菌マーカー、血中脂質の値には差が無く、インスリンに依存しないルートで耐糖



福本 学

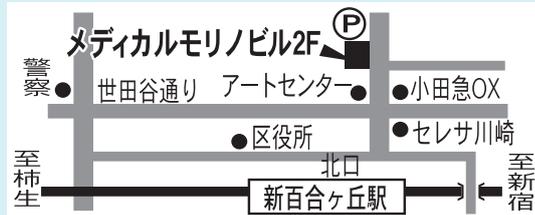
■内科

新百合山手福本内科

☎ 044-955-8877

麻生区万福寺 6-7-2

メディカルモリノビル 2F

<http://www.fukumotonaika.jp/>

能が改善する可能性がある」と報告しています。イヌリンはゴボウなどに、βグルカンは大麦などに含まれる水溶性食物繊維です。腸内細菌が血糖値を調整する能力を持っていることを示しており、これを糖尿病の新しい治療に利用する開発が進んでいます。